

業界ヒアリング資料 日本プラスチック工業連盟

2025年7月

【基本的な考え方】

- ・再生材の量的拡大には、再生材の品質改善が必須。再生材を「使いこなす」ことに注力するのではなく、普通の感覚で「使える」再生材を目指すべきではないか。
- ・現在流通している再生材は純度が90%前後のものが多く、その純度の低さがマテリアルリサイクル（MR）品の利用の障害の一つとなっていることは否めない。
MRを増加させるには再生材の純度を向上させる仕組みが重要。
- ・一度混合されたプラスチックを素材毎に分別するのは、設備的にもコスト的にも課題がある。
MRを増加させるには、低コストで分別回収（できれば単品回収）をより進めることが効果的ではないか。
- ・混合回収されたプラスチックあるいは複合素材化されたプラスチックは、コストと手間をかけて純度を上げるよりも、分別の重要性が相対的に低い手法（例：油化ケミカルリサイクル（CR））でリサイクルを進めるといった割り切りも必要ではないか。

- 使用済物品等の回収体制の整備状況について。

- >一般廃棄物の収集は現状各自治体のステーション回収が中心であるが、回収及び運搬の手間とコストの問題から、今以上に細かい分別回収を行うのは困難か。
- >企業や自治体施設での拠点回収は、スペース確保やコスト負担の課題はあるものの、自治体のステーション回収よりは細かい分別が可能ではないか。
- >企業や自治体の協力を得るために、拠点回収に対する補助金等の支援策を検討してはどうか。
- >消費者の協力を得るために、国の仕組みとして拠点回収への協力に対するインセンティブを与えてはどうか（例：ポイント還元等）。

- 再生材の分離・再利用の技術的可能性について。

> 欧州ではMRで99%以上の再生材を製造している企業があるが、それには一定以上の規模（処理能力≒10万トン/年程度？）と、大きな投資（数十台の選別機の設置）が必要。

日本ではなかなか実現が難しいのではないか。

> 前述の通り、一度混合されたプラスチックを素材毎に分別するのは、設備的にもコスト的にも課題があると同時に、純度の向上には自ずと限界がある。また、選別機の技術はそこそこ完成されているため、MRを増加させるには純度向上のための技術開発に重きを置くよりも、低コストで分別回収（できれば単品回収）をより進めることが効果的ではないか。

> 混合回収されたプラスチックはコストと手間をかけて純度を上げるよりも、分別の重要性が相対的に低い手法（例：油化ケミカルリサイクル（CR））でリサイクルを進めるといった割り切りも必要ではないか。技術によって油化CRの前処理が異なるが、混合回収品を分別するよりも技術的ハードルは低いと思われる。

- 現状の再生材利用量と将来に向けた拡大可能性（再生プラスチックの利用拡大に向けた業界の取組状況、今後の業界ロードマップ等）について。

>再生材は間違いなく増加すると思うものの、品質的面で現状のMRのみでは限界がある。

>再生材の利用拡大にはいくつもの条件が複雑に絡み合うため、単一業界での取り組みには限界があると考えべき。

> 量的確保、品質確保を考えると、今後油化CRに対する期待は大きい。

- 指定脱炭素化再生資源利用促進製品の対象になることで、再生材の供給拡大や技術開発促進につながると考えるか。

>どの程度効果があるかは現時点では不明。それよりも国の大胆な政策（特に品質面）推進の方が影響が大きいと思われる。

- 足切り基準（生産量又は販売量の要件）、スケジュールは問題ないか。

>あくまで例示とは思うが、説明資料にある5年後目標は、リサイクル事業に関する状況が刻一刻と変わっていく流動的な状況の元あまりにも中途半端な時期で、企業が計画策定に苦慮するのではないか。例えば、現時点での数量（ベンチマーク）、あるいは各社立案済みの事業計画に合わせた2,3年後の目標値の方が、計画策定の難易度は低いと想像する。

- 判断基準、計画・定期報告の内容は今後省令において規定していくが、現時点で留意すべき事項はあるか。

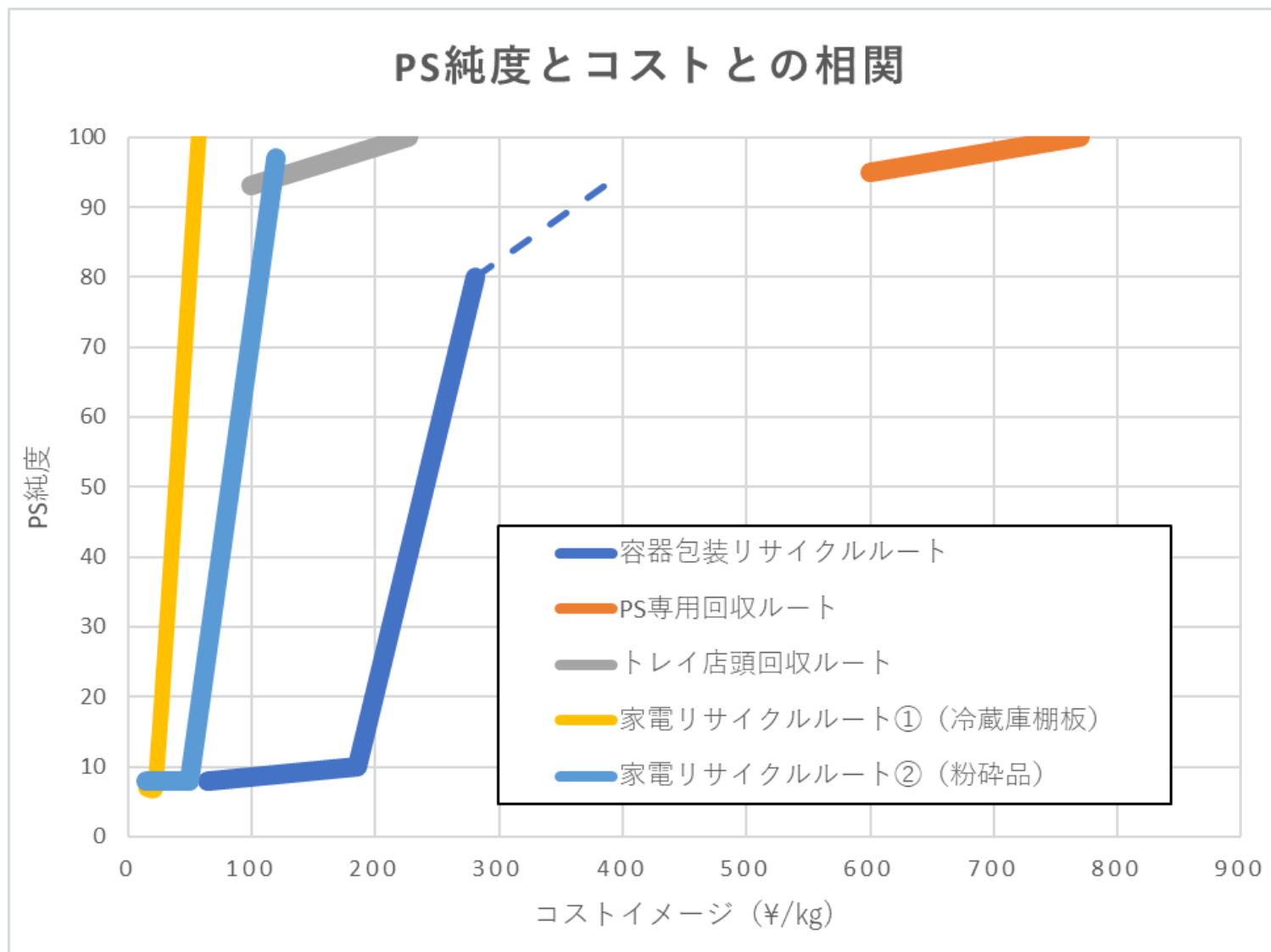
>生産計画なき利用計画、利用計画なき生産計画は立てづらい、という声が既に会員から聞こえている。例えば国が基準年における生産量（+輸入量）、利用量の目安を示すことで各社がそれに沿った計画を作成するのであれば、相対的に容易になるのではないか。

- その他、再生プラスチックの利用に関し考慮すべき事項について。

- >MR量の増大は、かなり大胆な発想転換とそれを支援する政策が必要と感じる。容リシステムは廃棄物行政を念頭に置いた法律であるが、現状はより資源循環の視点を思想に取り込むよう、システムそのものを見直すべきではないか（容リ法が国内のリサイクル推進に大きく貢献したことは評価すべき）。
- >例えば、今後は容リプラと製品プラを完全に一体化して回収、リサイクルしてはどうか。「プラマーク」を製品プラにも適用してはどうか。プラを容リの対象外としてはどうか。
- >容リプラは「プラマーク」の識別表示は義務化されているが、例えば「PE」などの材質表示は任意となっている。分別回収を推進するために、材質表示を義務化してはどうか。その際、材質毎にたくさんのマークが存在するのは消費者がさらに混乱する可能性があるため、量的に多い、PE、PP、PVC、PS、PETなどと、その他プラで回収するような仕組みにしてはどうか。視覚的に判りやすくするため、これらが単独でマークとなることがより好ましい。

参考:PSリサイクルの現状

- プラ工連は2018年にプラスチック資源循環委員会を組織し、4つのWGで各種検討を実施。
- PS(ポリスチレン)ーWGでは、既に実施されているMRをベースに更なるリサイクル推進を画策。
- 今後の活動の参考とするべく、今年度幾つかのPSリサイクルルートで再生品の品質とコストのイメージを整理した。



【結果の概要】

- ・PSはモノマテリアル製品が多く、しっかりと分別回収することで、それなりのコストで高純度再生品が得られることを確認。
- ・容リプラは量が多いものの混合回収が前提のため、純度アップが困難。
- ・拠点回収、分別回収により物流費が安くなる場合がある。

※コストイメージは実際のコストや売価ではない